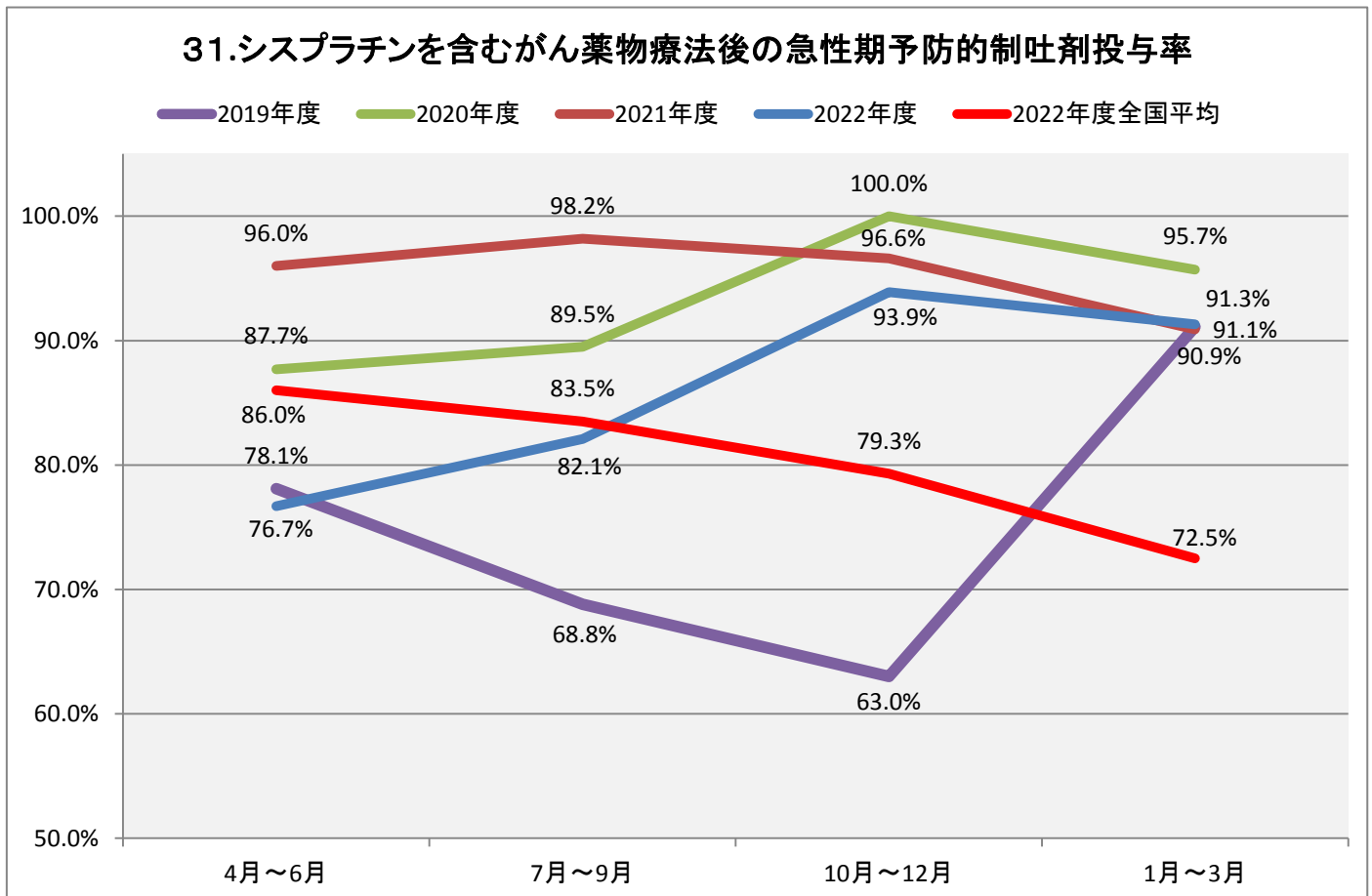


31.シスプラチンを含むがん薬物療法後の急性期予防的制吐剤投与率

(1)調査結果



調査期間	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
2022年度	76.7%	82.1%	93.9%	91.3%
2021年度	96.0%	98.2%	96.6%	90.9%
2020年度	87.7%	89.5%	100.0%	95.7%
2019年度	78.1%	68.8%	63.0%	91.1%
2022年度全国平均	86.0%	83.5%	79.3%	72.5%

(2)指標の説明

良好な治療アドヒアランスを得て化学療法を円滑に進めるために、催吐リスクに応じた予防的な制吐剤の使用は重要です。高度の抗がん薬による急性の悪心・嘔吐に対しては、NK1受容体拮抗薬と5HT3受容体拮抗薬およびデキサメタゾンを併用することが推奨されています。シスプラチンは「高度催吐性リスク」に分類されており、本指標では、この3剤の制吐剤が利用されているかを測定しています。

(3)定義

分子: 分母の実施日の前日または当日に、5HT3受容体拮抗薬、NK1受容体拮抗薬およびデキサメタゾンの3剤すべてを併用した数

分母: 入院にてシスプラチンを含む化学療法を受けた18歳以上の患者の実施日数